



海峽原草

三

遠 13
460
3



ありけれまむがしりそじゆまのむいづいひのまむし十今も菊よ
 ついでる女小巳を知らざるのいある人の「せんるがさのほし」
女房
十「さうろお言がまはまらつさうど。幸助が年ごころの」
 ぐらふふええままと「妙菩薩の女房の」十「近年と死にや
 るでそのむも中らりて入しもむいづいひません」十そ
 おもやげん何れどおのぞきとひひて入ようど。ウト。てんり代
 かうけごろいあげられし息ふと。巳がまらづね縁ハ唐撰
ちう張の結城とこれいりてよしのむが糸織の小袖うちと中

の家イヤつす八分の帯のりりごころ「こすらぶるおの無地
ごころ
 琥珀とらまてくあう「そこまぶるもむらうくめん」十ま
まがらみあうそで「あうまうのいひわれまむらう」女「あま入お徳をよみて
十あうまう
 ら「いあむ」十ナダ奈須野じり。まうろやらちも物ふるつて
女「何んぞむいしまむと」十「又け頃ふらんらり」女「イヤせん」
かえ番び

四 ね 根を波殺つて夫言

